

みやぎ街道交流会NEWS

2011年9月1日発行

「山田音羽子とお国替絵巻」企画展より



音羽子の絵



「お国替絵巻」
(全3巻の巻物に改装)

音羽子愛用の硯



音羽子愛用の硯
山田音羽子作

ニュースで紹介したい催しや参加報告は
こちら事務局までお寄せください！



〒980-0014
仙台市青葉区本町 1-13-32
オーラビル 606号
TEL: 022-722-3380
FAX: 022-722-3380
Mail to: miyagi-kaidou@auone.jp

私の古道・歴史探訪

花房宏行(会員)

城館探訪を趣味とする私は、30年以上前に宮床を探訪した。目的の山城の麓の民家を訪れ、ルートを尋ねた。主人が案内し、帰途家に招かれ、茶箱3つの古文書を見せられた。そのうち一巻の巻物の鑑定を依頼されたが、鉄砲の免許皆伝の巻物だった。主人は大工で旧家の土蔵を修理した時に貰ったもので、旧家は宮床伊達家の家臣と思われる。この事を宮床宝蔵の館長に話したところ、早急に保護措置をした方が良くとの事で、古文書を宝蔵に移管した。今になって考えれば、震災後の古文書保護活動のさきがけであった。



私の古道探訪は中学生の時に始まる、深夜仙台を出発し泉ヶ岳を目指した。北山から仙山線北山駅をのぞき、中山のジャスコの西を通って根白石に通じる荒巻街道である。

藩政時代の燃料・食料の輸送路だった。開発でほとんど消滅した。この道路の行き着く所、町頭に鷲尾家がある。鷲尾文書で知られる旧家で、義経の家来鷲尾三郎の子孫と言われ、三郎は一の谷の合戦の最大の功労者であった。墓碑に三郎は平泉で義経と共に討ち死にしたとある。

私は鷲尾一族の事を調べ、三郎は義経北行に同行し、青森市野内で別れて亡くなり、平泉に居た息子の一人は神戸近くに戻り、一人は根白石へ土着した。これ等のことを当主に知らせ。宮床の時と同様に米と野菜を頂いた。

七北田川の実沢付近には興味ある地名が多い。平泉を攻めた頼朝の軍勢が野営し、立ち去った所に立田・去田が残り、陣

所跡がある。この様に地名の漢字の意味から適当な説話を伝えている。筆頭は鼻毛橋、アイヌ語で解読すると川下ないし、川の上の削られた所一段丘崖となる。多摩川ではハケと呼ばれており、後者が正しいと思われる。解読してあつと驚いたのが無串橋で、串を無くした所と適当な話がされているが、ムイ(箕ク)シ(大きい)、大きな箕のように弓なりの所となる。ここは川が蛇行し大きな箕のようになっていた。栗原の姉歯も細い岬状地形の先端のアイヌ語地名で、歯には姉妹が無い。また、七北田川の旧称冠川もカムイで、八坂神社の社伝も神降川と正しく伝えていく。誰かが冠を落としたのではない。

川の右岸加茂に長命城がある。平泉方の城と伝えられ、吾妻鏡に記された国府中山上物見ヶ岡であると仙台藩の記録にもある。しかし国府の名称からもっと多賀城に近い場所ではないかと言われてきた。ここから私の探訪先は岩切・利府の山間に移った。利府町森郷の惣の関ダムのそばを通る利府松山線の乗馬クラブの地点の東の尾根に国府中山があった。板谷峠である。古文書に「ふ中山いたやどおりを・・・」とあった。この道は東山道であり中世の奥大道である。この谷の入り口に勿来(名古屋)の関がある。いわきの地域学会の人がここが本当の勿来の関で福島は偽物だと断定している。私はナゴソをアイヌ語で川が平地に向かって流れる所と解した。

後期東山道・後期奥大道については次の機会に述べたい。



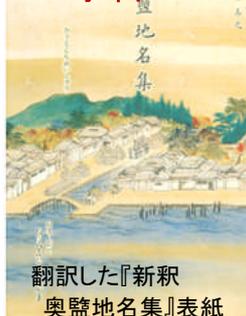
中山二丁目 中山越えの起点(数百mの古道残る)

☆予告☆みやぎ街道交流会 震災復興支援フォーラム『奥塩地名集』講演会&観月舟

江戸時代の塩竈を代表する地誌である「奥鹽(おうえん)地名集」を題材とした講演会と観月舟の「震災復興支援フォーラム」を多賀城市史跡案内サークル・特定非営利法人 NPO みなとしほがま・おくの細道松島海道との共催により開催します。詳しくは募集チラシをご覧ください。

日時	10月10日(月・祝日)13時半	内容
場所	瑞巖寺・陽徳院(松島町)及び松島湾	
問合せ	みやぎ街道交流会事務局 (miyagi-kaidou@auone.jp)	

- 第1部** 定員100名、参加費千円/人:瑞巖寺拝観料、資料代含む
◆基調講演:「『奥鹽地名集』から多賀城~塩竈~松島を考える」
講師:東北学院大学経営学部教授 斎藤善之氏
- ◆フォーラム**
- 第2部** 定員80名、参加費4千円/人:特別乗船券、月見ご膳、飲物(アルコール有り)含む
◆観月舟:松島湾観月クルージング



翻訳した『新釈奥鹽地名集』表紙

～江戸期の女性旅日記～「山田音羽子とお国替絵巻」の企画展と記念講演会



7月23日(土)に会員有志3名と「山田音羽子とお国替絵巻」の企画展と記念講演会に行ってきました。山形城主であった秋本藩は、弘化2年(1845)に群馬県館林に国替えを命ぜられ、翌年に「大名の引っ越し」が行われました。絵に素養がある藩士山田喜大夫秀信の夫人「とわ女」(音羽子)は、この引っ越しの概況を館林に到着するまでの道中記を写生画とともに記録しました。このうち山形から七ヶ宿を経て小坂峠までは、高倉名誉会長がホームページの「七ヶ宿街道2」^{*1}に掲載していますので参照ください。この企画展では、足利市在住の音羽子のご子孫の山田秀穂さんからお借りした貴重な資料が展示されており、「七ヶ宿町水と歴史の館」で10月30日(日)まで開催されています。

※1 <<http://www42.tok2.com/home/kaidoumiyagi/>>

宮城県地名研究会「夏の地名講座」に参加して

8月20日(土)9:30~11:30に仙台福祉プラザで開催された「仙台の地名と災害地名」<地名からさぐる仙台の歴史>に参加しました。講師は、宮城県地名研究会会長(みやぎ街道交流会顧問)の太宰幸子氏で、定員の50名を上回り大盛況でした。

講演の中では、宮城県の地名に見る特徴、移民による地名、『和名類聚抄』に見る地名などの基礎的内容の後、本題の仙台北下の地名や3.11の大震災に関連した災害・崩壊地名について説明がありました。先人からのメッセージとして、その土地の歴史や警告を伝える地名が、都市化や合併等により失われていくことに、現代に生きる我々ももっと注視していく必要があると、今回の大震災を経験して更に感じました。

(山屋記)



イベント予告情報館

第9回萱野峠・敷石惚れ掘れ探検隊



9月24日(土)に、山形県小国町で、萱野峠敷石掘り起こし、昼食会、大里峠トレッキング or 木工クラフト、宿泊交流会を行います。

問合せ: 萱野峠・敷石惚れ掘れ探検隊実行委員会 (050-7507-5955)

第7回の作業風景

<http://www6.plala.or.jp/mount13/>

第24回森の遊学校「有屋峠物語」

10月1日(土)と2日(日)、山形県金山町で、1日目:有屋フォーラム、懇親会(番楽も披露予定)、2日目:俗説の有屋峠踏査(おにぎり2食分、入浴券付)、を行います。

問合せ: 山形県 遊学の森 木もれび館 (有屋峠探訪会)
(0233-64-3305)

<http://www.town.kaneyama.yamagata.jp/yugaku/index.htm>

とうほく街道会議第7回交流会『よみがえる仙北街道』東成瀬大会

10月14日(金)と15日(土)に、秋田県成瀬村で、1日目は基調講演、分科会、2日目には仙北街道探訪会等を行います。

問い合わせ等: とうほく街道会議
(022-722-3380 miyagi-kaidou@auone.jp)

第8回羽州街道交流会大館大会(仮称)

11月12日(土)と13日(日)に、秋田県大館市矢立で1日目には基調講演及び分科会、2日目には羽州街道探訪会(矢立峠)ほか予定されています。

問合せ: 羽州街道交流会事務局
(080-3320-6519 info@ushukaido.com)

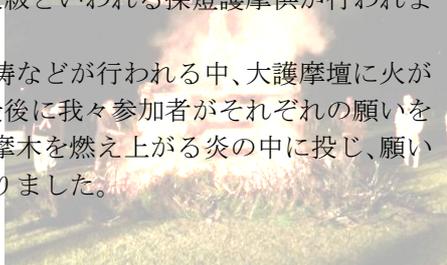
大震災復興祈願 七ヶ宿火まつり

8月20日18時30分から開催された「七ヶ宿火まつり」に参加してきました。例年は七ヶ宿町の地域振興と翌日開催される“わらじで歩こう七ヶ宿”の安全祈願を目的としていましたが、今回は大震災の復興祈願も加わっています。

最初に主催側山伏の一団が結界に入場します。そこに旅の山伏一行が一緒に加えてくれると言うことで訪ねて来て、本当の山伏かどうかを確かめる山伏問答(試験)が行われます。そして、この問答に合格した旅の山伏も含めた約30人により、東北最大級といわれる採燈護摩供が行われました。

様々な祈祷などが行われる中、大護摩壇に火が付けられ、最後に我々参加者がそれぞれの願いを記した添護摩木を燃え上がる炎の中に投げ、願いの成就を祈りました。

(山屋記)



編集後記

まだまだ暑い日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。本号より新しく広報を担当させていただきます谷下です。前担当のくりさんに負けないように、皆様によりよい情報を提供していきたいと思います。右も左もわかりませんが、皆様宜しく願います。さて、10月には震災復興支援フォーラムを開催いたします。奮ってご参加ください。(たにしー)